



国立アイヌ民族博物館展示計画の概要

「国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画」(平成27年7月)において定めた展示に関する方針等について、更に検討を深め具体化するために設置した「国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示検討委員会」により取りまとめられた「国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示計画報告書」(平成28年4月)を踏まえ、展示の基本的な考え方、対象とする地域等、特色、形態、環境等について、国立アイヌ民族博物館展示計画として取りまとめた。

1. 展示の基本的な考え方

国内外の多様な人々に、アイヌ民族の歴史や文化を正しく学び、正しく理解する機会を提供するために、アイヌの歴史・文化等を総合的・一体的に展示する。

2. 展示の対象とする地域、時代など

- ・アイヌ民族が居住してきた北海道、サハリン(樺太)、千島、本州東北地方を中心に、周辺諸地域との関わりの中で醸成されてきたことに留意した展示を行う。
- ・旧石器時代から現代までを対象とし、周辺の人々との交流を含めた広がりの中で多面的に取り上げる。

3. 展示の特色

- ・最新の情報を公開できるよう可変的な展示形態や展示システム。
- ・館内の解説パネルやサインには、アイヌ語、日本語、英語のほか必要に応じて多言語に対応。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、あらゆる人に開かれた展示環境を実現。
- ・国内外の博物館とのネットワークをいかした展示会などを企画・実施。

4. 展示の形態

(1) 総合展示

① 基本展示室 (1,250㎡)

- ・アイヌ文化等の基本的な事象を伝え、「私たちの～」という切り口の6テーマと導入展示及び子供向け展示で構成。

② テーマ展示室 (0~600㎡)

- ・多様な切り口やテーマを一定期間紹介する展示。
- ・可動壁により3~4室に分割できるようにし、特別展示との一体的な利用も可能とする。

③ シアター (150㎡)

- ・映像や音声でアイヌ文化等の概要を紹介。
- ・ガイダンス的役割を持ち、小規模な講演会やレセプション等にも対応。

(2) 特別展示室 (400~1,000㎡)

- ・特定のテーマや事象について最新の調査・研究の成果等を紹介。
- ・テーマ展示室と可動壁を活用して統合・分離し、面積を可変とする。

5. 展示室の環境等

- 1)天井高・床など:天井高は6~7m程度を確保し、展示更新が容易な環境。
- 2)照明・外光 :資料に影響を与えない保存環境やメンテナンス性を考慮。
- 3)空調 :展示資料に影響を与えない最適な温度及び湿度を維持。

今後のスケジュール

- ~平成29年度 施設設計及び展示設計
- 平成29年度~平成31年度 施設建設工事及び展示工事
- 平成32年度 開館予定

<基本展示室 導入展示、子供向け展示と6つの展示テーマ>

導入展示

- ・民族共生をテーマに、来館者自身が世界の諸民族を考える場とする

私たちの世界(信仰)

- ・カムイ(神)のくらす世界
- ・儀礼のあらまし
- ・さまざまな儀礼
- ・あの世のとらえ方
- ・周囲の文化との比較

私たちのくらし

- ・今に息づく装い
- ・住まう
—私たちの祖先がくらしした生活空間—
- ・受け継がれる食文化
- ・人の一生
- ・受け継がれる芸能文化

私たちのしごと

- ・先祖のしごと[江戸時代後期~明治]
- ・激動の時代のなかで[明治~昭和]
- ・現代のしごと[平成~]

私たちの交流

- ・生活圏と海を越える交流【近世】
- ・人びとをつなぐモノ【近世~近代】
- ・外から見たアイヌ文化【近世~近代】
- ・海外の先住民族との交流【近代~現代】

私たちのことば

- ・アイヌ語の基礎
- ・アイヌ語の歴史とことばの復興
- ・アイヌ語地名
- ・アイヌの口承文芸
- ・アイヌ文学

私たちの歴史

- ・イントロダクション:
私たちの歴史のひろがりとはつらなり
- ・遺跡から見た私たちの歴史
- ・アイヌとシサム(和人)
- ・私たちのまわりが大きく動く
- ・現在に続く、私たちの歩み

子供向け展示

- ・幼児や小学校低学年を主な対象として、体験型の手法を多用する